

4. 活動報告

4. 1 会議および実験記録

平成 30 年 5 月 19 日

場所：株式会社翔エンジニアリング会議室（東京都港区）

時間：15:00 ～ 18:00

出席者：松島、藤原、森田

会議内容：平成 30 年度実験計画会議

昨年度の成果の取りまとめについて

今年度の実験計画について

6 月の京都大学宇治キャンパスの電波暗室での室内実験計画について

平成 30 年 6 月 16 日

場所：株式会社翔エンジニアリング会議室（東京都港区）

時間：15:00 ～ 18:00

出席者：松島、藤原

会議内容：室内実験打合

6 月 17 日からの京都大学宇治キャンパスの電波暗室における実験の手順について
実験機材の準備作業

平成 30 年 6 月 17～19 日

場所：京都大学生存圏研究所 マイクロ波送受電実験棟（京都大学宇治キャンパス）

出席者：森田、岸本、古川、松島（18 日より参加）

会議内容：空中マイクロ波送電実験

データ通信回線への干渉現象の調査実験

GNSS 測量装置への干渉現象の調査実験

平成 30 年 7 月 19～21 日

場所：京都大学生存圏研究所 マイクロ波送受電実験棟（京都大学宇治キャンパス）

出席者：森田、岸本、古川

会議内容：空中マイクロ波送電実験

近距離送電の事前確認用の試験

平成 30 年 7 月 26 日

場所：株式会社翔エンジニアリング会議室（東京都港区）

時間：15:00 ～ 17:00

出席者：松島、森田、藤原（電話参加）

会議内容：実験の報告

京都大学宇治キャンパスで 7 月 19～21 日に実施した、空中マイクロ波送電実験の報告。実験結果の討議。今後の実験計画の打合せ。

平成 30 年 11 月 6 日

場所：株式会社翔エンジニアリング会議室（東京都港区）

時間：15:00 ～ 18:00

出席者：松島、藤原、森田、岸本

会議内容：第 1 回技術検討会

平成 31 年 2 月に予定していた桜島火山における屋外実験の打合せ

11 月の許可される想定であった、空中マイクロ波送電の無線免許が調査継続となり、年度内の許可が難しくなってしまった件についての、経緯と対策についての協議

従来は免許対象外となっていたバックスキッターリング方式のデータ通信について、総務省の方針が変更となり、免許申請が必要と判断を変更したため、総務省に提出する実験計画の変更が必要になったもの。免許申請の方法について協議を行った。再申請に伴う屋外実験の変更についての検討。

平成 30 年 12 月 7 日

場所：株式会社翔エンジニアリング会議室（東京都港区）

時間：10:00 ～ 15:00

出席者：松島、森田、藤原、岸本

会議内容：

12 月 1 日の空中マイクロ波送電実験の結果報告および検討
今後の実験日程や内容の調整。

2 月実施予定の桜島火山における屋外実験については、無線申請が年度内に免許さないことが確定したため、来年度に延期することとなった。代替の室内実験の内容についての協議を行った。

平成 31 年 2 月 9～11 日

場所：京大生生存圏研究所高度マイクロ波エネルギー伝送実験棟（京都大学宇治キャンパス）

出席者：松島、岩佐、及川、森田、藤原、岸本、宋（ASCL）

会議内容：空中マイクロ波送電実験および第 2 回技術検討会

近距離送電用送電特性の評価試験

空中マイクロ波給電実験

位置検出器の試作・評価試験

改良した火山観測・監視装置の動作試験

実験結果を持ち寄り、技術検討を行い、次回 3 月の実験方針を決定した。

平成 31 年 3 月 12～16 日

場所：京大生生存圏研究所高度マイクロ波エネルギー伝送実験棟（京都大学宇治キャンパス）

出席者：松島、岩佐、及川、森田、藤原、岸本、古川、勝亦（翔エンジニアリング）、

宋、鳥山 (ASCL)

会議内容：空中マイクロ波送電実験および第3回技術検討会

近距離送電用送電特性の評価試験

空中マイクロ波給電実験

改良した火山観測・監視装置の動作試験。実験制御装置との接続試験

通信機能付レクテナの評価試験

位置検出器の試作・評価試験

自律ホバリング制御及び自律着陸制御実験

実験結果を持ち寄り、技術検討を行い、来年度の開発・実験方針を決定した。

平成31年3月27日

場所：株式会社翔エンジニアリング会議室（東京都港区）

時間：10:00 ～ 12:00

出席者：松島、森田、前(翔エンジニアリング)

会議内容：接続実験

3月12～16日の宇治市の実験における接続試験で動作不良であった、無人航空機上に搭載した遠隔データ回収デバイス（シモレックス社製 ScAirBackup クライアント）と無人航空機の動きを制御する実験制御装置との接続試験を行った。実験制御装置の改良により、想定どおりの接続が可能になったことを確認した。